

2月 HUG だより

情報提供者 やましろ小児科 山城 武夫

2月のテーマ：急な病気、病院に連れて行った方が良いケース（判断、情報など）

小児は年齢により症状の把握が困難な場合が多い。保護者、身近にお世話している人、特に母親の観察力に左右されます。見る、聞く、触るなど、五感を働かせてください。子育てには非常に大切です。例えば下痢をしてぐったりしている子どもの体温はどうか肌を触れてみる、話しかけてみて元気さ、対応の反応をみる、息づかいを見る、呼吸音を聞く、お腹のふくらみぐあいや音（腹鳴）を聞く、便の状態を見る、嗅ぐなど全身で情報を得るようにしましょう。そのために普段から、お風呂などで全身を触り、全身を見る、嗅ぐ、音を聞くなど触れ合う子育てが必要と考えます。二・三の症状の例で説明します。

発熱：子どもは体温調節が不十分で、環境にも左右され、不機嫌でぐったりします。いろんな病気で発熱します。服装の調節、水分補給、冷却などで初期対応をしますが、けいれん、どこかの痛み、とても不機嫌な状態かなどを観察しましょう。2～3時間しても改善されなければ受診しましょう。ただし、**生後3カ月未満であればすぐに受診した方が（多くは入院精査を受けた方が良い）良いでしょう。**

不機嫌：顔色が悪い、抱っこしても、あやしても激しく泣く、体を触ると（腕、お腹、外陰部など）不機嫌、痛みがあるような場合は受診、相談が必要でしょう。

吐く：発熱、痛み、激しい下痢をともなう場合は受診しましょう。（吐物や下痢便は病気の判断には重要なものになりますので受診する場合は持参しましょう）。

咳と呼吸困難：感染症による咳、アレルギーによる咳・呼吸困難があります。子どもの胸の音を普段から耳を当て聞いておきましょう（正常な呼吸音の把握、心音の把握、速さ等）。

脈：子どもの脈拍はなかなか測れませんね。胸に耳をあて数を数えましょう。リズムを聞きましょう。（健康な時に試しておきましょう）。



* こどもの救急 (ONLINE-QQ)

[公益社団法人 日本小児科学会 JAPAN PEDIATRIC SOCIETY \(jpedso.or.jp\)](http://jpedso.or.jp)

日本小児科学会ホームページの「一般の皆様へ」から入って下さい。症状などの項目に☑してクリックすると急病、受診の判断が得られます。

* 子どもの救急対応マニュアル 下記の URL（三重県の「医療ネットみえ」）から検索してください。アイコンの『子どもの救急対応マニュアル』をクリックして、「目次」の「熱が出たとき」へ進めると、こんな時はどうするの？「しばらく様子を見ましょう」「すぐお医者さんへ」の指示が読み取れます。三重県の小児科医の制作、編集です。是非ご覧下さい。

<https://www.qq.pref.mie.lg.jp>

* #8000 固定電話・携帯電話を利用して子どもの医療相談が受けられます。

* 津市救急・健康相談「ダイヤル24」 ☎0120-840-299